

そらまめの管理について

1 今後の管理

(1) 摘花・摘莢

- ・早い時期から着莢させると草勢が落ちるので低節位の花や莢は摘み取る。
- ・先に咲いた2花を残して摘花し、着莢後は莢長が小指大になるまでに1節1莢に整理する。
- ・莢が枝の方向(内側)に曲がっているものは肥大しないので、摘莢する。
- ・曲がり莢や規格外となる莢は早めに摘莢し、1枝あたり10莢程度確保する。

(2) 摘心

- ・生長点が誘引ネットの上端5cmぐらい下まで伸びたら心を抜く。(25～30節)

2 追肥

- ・葉色が薄くなったり茎が細くなったら追肥を随時行う。(NK化成2号:20kg/10a)
- ・特に生育の悪い株は液肥(液肥特2号の800倍液など)のかん注や葉面散布を行う。

3 病害虫防除

(1) 病気

病名	病状	対処法
モザイク病	葉にモザイク症状を示し、生育が止まる。	ほ場から持ち出し、ウイルスを媒介するアブラムシの防除を行う。
菌核病	主として茎が侵される。初め地際部に赤褐色不定形の病斑を生ずる。	枝が混み合わないよう誘引し、定期的な予防散布を行う。
さび病	主に葉と茎に発生し、葉の表面が赤いさびのような粉をふく。発病は下葉から始まり、上葉に広がる。	気温15℃以上になると感染・発病が多くなるので予防散布を行う。
赤色斑点病	葉、茎、莢に発生し、葉では表面または裏面に赤褐色の小斑点を生ずる。	被害が広がる前に初期防除を徹底する。

(2) 害虫

- ・ほ場周辺の環境整備(草刈り等)を行う。
- ・発生初期に薬散による防除を行う。



アブラムシ



スリップス類(成虫)



スリップス類(幼虫)